

平成 16 年度 GIF プロジェクト活動報告

1 GIF プロジェクト会議等開催状況

- ・日米 ILL/DD 及び日韓 ILL/DD プロジェクトに関する諸問題について電子メール等による協議、意見交換を行った。
- ・平成 16 年 10 月 22 日開催の平成 16 年度第 2 回学術コミュニケーション委員会において、日韓 ILL/DD に関するプレスリリース、暫定サービス及びデジタルリソースに関する日米間の連携・協力について協議した。
- ・平成 17 年 4 月 27 日開催の NII コンテンツ課との打合せにおいて、GIF 関連の NACSIS-ILL の課題、米国 ILL/DD meeting への対応等について協議した。
- ・平成 17 年 5 月 20 日開催の平成 16 年度第 3 回拡大国際学術コミュニケーション委員会において、日米 ILL/DD の諸問題、日韓 ILL/DD の本格運用に向けての課題及び日米のデジタルリソースの形成・流通における連携・協力について協議した。

2 活動概要

(1) 日米 ILL/DD プロジェクト

GIF プロジェクト参加状況

参加機関数は平成 17 年 4 月 25 日現在で日本側 94 機関、104 図書館（内訳：国立大学 57 機関 66 図書館、公立大学 3 機関 4 図書館、私立大学 30 機関 30 図書館、大学共同利用機関 4 機関 4 図書館）、北米側 45 機関、48 図書館であり、平成 16 年 10 月以降日本側 3 機関 3 図書館、北米側 8 機関 8 図書館の増加となっている。

現物貸借サービス参加状況

平成 15 年 8 月 1 日から開始した現物貸借サービスの参加状況は、平成 17 年 4 月 25 日現在で、日本側 45 機関、47 図書館（内訳：国立大学 32 機関 33 図書館、私立大学 8 機関 8 図書館、公立大学 1 機関 1 図書館、大学共同利用機関 1 機関 1 図書館）、北米側 25 機関 25 図書館であり、平成 16 年 10 月以降日本側 3 機関 4 図書館、北米側 4 機関 4 図書館の増加となっている。

(2) 日韓 ILL/DD プロジェクト

韓国教育学術情報院（Korea Education & Research Information Service : KERIS）との協議

平成 16 年 11 月 8 日 NII において、日韓 ILL/DD 暫定サービスの実施に向けて技術的な問題点を協議するために、KERIS から Kim, Dong Woo 氏ほか 3 名を迎え、「日韓 ILL/DD に関する技術会議」を開催した。会議では、Z39.50 インタフェース、ISO ILL プロトコル等についての KERIS と NII の協議、暫定システムの参加状況等についての報告が行われた。

なお、暫定サービスとは、開始されたサービスが、ISO ILL プロトコルに基づく NII

と KERIS の ILL システム間リンクに基づいていないために、このように称しているが、運用は通常業務として実施されている。

文部科学省による日韓 ILL/DD の記者発表支援

日韓 ILL/DD の開始による日韓間の学術情報流通の新展開について、文部科学省において記者発表をすることになり、GIF プロジェクトが準備を支援した。記者発表は 11 月 19 日に行われ、日刊工業新聞に紹介された。

なお、韓国側でも記者発表が行われ、12 月 1 日の「明日新聞」で紹介された。

暫定サービスの開始

平成 16 年 11 月 22 日から日韓 ILL/DD 暫定サービスが開始された。開始時点の日本側参加館は 59 館、韓国側は、223 館であった。

平成 17 年 4 月 25 日現在、日本側参加館は、66 機関、83 館（国立 44 機関 57 館、私立 19 機関、22 館、大学共同利用機関等 3 機関、4 館）、韓国側参加館は、226 館となっている。

日韓 ILL/DD サービスガイドの作成

暫定サービスを開始するにあたり、文献複写の依頼・受付業務を実施するための基本的事項を説明した「日韓 ILL/DD 暫定サービスガイド」を作成し、GIF のホームページで公開した。

日韓人文振興政策懇談会におけるデモンストレーション支援

平成 16 年 12 月 4 日開催の標記懇談会の前日に韓国側参加者に対して NII 事業の紹介をすることになり、そのプレゼンテーションの中で、日韓 ILL/DD のデモンストレーションを行った。GIF プロジェクトは、KERIS 及びソウル国立大学校の図書館と協力し、デモンストレーションのための準備を支援した。

(3) 日本研究上級司書講習における GIF の紹介

平成 16 年 12 月 6 日に NII において、日本研究上級司書講習参加者に対して、日米 ILL/DD、日韓 ILL/DD の現状について説明を行った。

(4) Meeting on Digital Collection and Electronic Resources Portal の開催

平成 16 年 12 月 13 日に NII において、アメリカ研究図書館協会の Mary E. Jackson 氏を迎えて、標記会議を開催した。会議では、Jackson 氏から米国の研究図書館におけるポータルについて、日本の状況について東京工業大学の熊淵補佐及び NII の杉田文字情報係長から報告があり、その後意見交換を行った。最後に日米両国におけるデジタルコンテンツの形成及び流通に関して、今後とも日米間の協議を継続することが確認された。

3 今後の課題

(1) 日韓 ILL/DD プロジェクトの本格運用、現物貸借の実施

- (2) 日米 ILL/DD の改善と国際 ILL 担当者のスキルアップ方策
 - ・ NACSIS-ILL からの OCLC WorldCat 参照の実現
 - ・ 所蔵館表示における GIF 参加館のフィルタリング等
- (3) 北米以外の国々との国際 ILL の展開
- (4) デジタルリソースの形成・流通に関する日米の連携・協力
- (5) 米国東アジア図書館「日本資料委員会」への対応
- (6) 米国 ILL/DD meeting への対応